神根中だより

～自他共に認め合い学び合う
夢と笑顔と潤いのある学校～
令和８年１１月号

学校教育目標
主体的に学び合い
心豊かで　たくましい生徒

川口市立神根（かみね）中学校
〒333-0823　埼玉県川口市石神１５１５－１
電話　（０４８）２９６－７０２５

仲間を信じ、心を結ぶ

校長　寺田　和成

「戮力協心～巻きおこせ神革命～」のスローガンのもと、先月の第４７回体育祭は、数々の熱戦が繰り広げられ、生徒たちの熱い思いが伝わる素晴らしい体育祭となりました。たくさんのご来賓、保護者、地域の皆様にご来校いただき、また、ＰＴＡの皆様には、事前の緑化作業から当日の受付・誘導まで、様々な面でご支援、ご協力をいただき、本当にありがとうございました。

本年度は天候にも恵まれ、オレンジ団と水色団とに分かれて競う新しい形での体育祭となりましたが、どちらの団も見事な団結力を発揮し、最後まであきらめずに全力で挑む姿に心を打たれました。当日お越しいただいた皆様方にも、まさにスローガンのとおり、力を合わせ、心を一つにした姿とともに、たくさんの笑顔と感動をお届けすることができたのではないかと思います。

さて、埼玉県では毎年１１月を「いじめ撲滅強調月間」としています。ＩＴ社会である現在、子供たちの問題行動がスマートフォン等のインターネット上で増加し、いわゆる「ネットいじめ」などの目に見えにくい形に変化している現状があります。また、自分ではそのつもりはなくても、自分の思いや感情がうまく相手に伝わらず、トラブルになるケースも多くあります。ネットコミュニケーションを図るためには、人それぞれ感じ方が違うことを理解し、相手を思いやり、相手のことを考え、相手の顔を思い浮かべながら、やり取りすることが大切であると感じます。

では、メールやＳＮＳ等の文字のやり取りで、感情がどのくらい相手に正しく伝わるのでしょうか。シカゴ大学とニューヨーク大学で、次のような共同研究が行われています。メールでの情報伝達の難しさを明らかにするために、真剣な内容や皮肉めいた意味合いなど、様々な感情が込められた文章をメールと音声で別々に送信して、相手に正しく伝わるかどうか実験を行いました。結果、送信者側はメール・音声ともに約78%は正確に伝わっているはずだと予想していたところ、実際にはメール・音声ともに予想を下回る程度でしか正確に伝えられていないことが判明しました。音声での伝達成功率は予想をわずかに下回る73.1%であったのに対して、何と**メールでは予想を大きく下回る56%しか正しく伝わっていない**という結果が出ました。つまり、メールでは想像以上に正しく感情を伝えられていないことが明らかになったわけです。

文字による伝達は、情報や連絡などを伝え合うことには効果的です。しかし、文字だと顔の表情や声の抑揚が伝わらないので、感情や意思、気持ちや思いなど、微妙なニュアンスが相手に伝わりにくくなります。そのため、誤解が生じやすく、トラブルになりやすいというわけです。

文字による伝達（メール、ＳＮＳ等）をする際のポイント

①相手の表情や声の抑揚がわからないために、誤解が生じやすいという認識をもつこと。
②相手の気持ちを考えて十分に言葉を選び、何度も読み返してから送信すること。
③意図していないような伝わり方をすることがあるので、送信内容を再度チェックすること。
④受信内容があいまいな表現で意味がわかりづらい場合は、相手にしっかりと確認すること。
⑤トラブルが発生したときは、直接会って、顔を見て話をすること。

ぜひご家庭でも、この５つのポイントについて話題に出していただき、お子様と改めてメールやＳＮＳ等の正しいやり取りの仕方について、話し合っていただければ幸いです。

【雑考】体育祭は「仲間を信じ、心を結ぶ」もの。対して、いじめは「仲間を蔑み、心を断ち切る」もの。人として正しい行いとは何か？常に自分に問いかけていきたい。「善いことをすれば気分が良い。悪いことをすれば気分が悪い。それが私の信条だ。」エイブラハム・リンカーン